

O-34 肺切除術の開胸法・術式は術後理学療法実施回数・術後入院日数に影響するか

近畿大学医学部附属病院 リハビリテーション部¹⁾ 近畿大学医学部 外科学教室²⁾

本田 憲胤¹⁾、澤田 優子¹⁾、前田 和成¹⁾、丸尾 優子¹⁾

原 聡²⁾、廣畑 健²⁾、南 憲司²⁾、福田 寛二¹⁾

【目 的】

当院では理学療法士が、肺切除術を実施する患者に対し周術期の理学療法を行っている。肺切除術は、開胸法や侵入法、切除範囲などに分類が可能である。術式に関わらずこれらの患者に対し一定の終了基準を決め理学療法を実施している。肺切除術の開胸法や術式が術後理学療法実施回数、術後入院日数に影響を与えるかを後方視的に検討した。

【対 象】

平成 18 年 4 月から平成 19 年 3 月までの期間に肺切除術を施行し理学療法を行った 83 例（男性 63 名、女性 20 名、年齢 65.7 ± 9 歳、身長 166.3 ± 8.3 cm、体重 60.2 ± 11.4 kg）を対象とした。

【方 法】

83 例を 1 開胸法による分類は、標準的開胸術（以下、開胸術）と胸腔鏡下手術（video assisted thoroscopic surgery、以下 VATS）の 2 群。2 皮切部位による分類は、側方切開、前側方切開、後側方切開の 3 群。3 術式による分類は、葉切除、部分切除、片肺全摘、両側部分切除の 4 群にわけ、患者背景の比較を行った後に術後理学療法実施回数と術後入院日数をそれぞれ比較した。統計処理は統計ソフトウェア（Windows 版 SPSS12.0）を使用し有意水準を 5% 未満とした。

【結 果】

1、患者背景の比較

開胸法別 2 群の患者背景（表 1）、皮切部位別 3 群の患者背景（表 2）、術式別 4 群の患者背景（表 3）、各群間の比較で有意差はなかった。

2、術後理学療法実施回数、術後入院回数の比較

開胸法別 2 群の術後理学療法実施回数と術後入院回数の中央値（最小値～最大値）は、開胸術 5（2～36）、10（3～64）、VATS、4（2～20）、7（4～29）、であり術後理学療法実施回数は VATS で有意に少なかった（ $p=0.01$ ）。また、術後入院日数は VATS で短い傾向が見られた（ $p=0.055$ ）。皮切部位別 3 群では、側方切開 4（3～20）、8（5～29）、前側方切開 4（2～36）、8.5（3～64）、後側方切開 5（2～18）、7（6～17）、であり 3 群間に有意差はなかった。術式別 4 群では、葉切除 4（2～9）、10（3～29）、部分切除 4（2～6）、6（5～16）片肺全摘 4（3～18）、6（5～17）、両側部分切除 4（2～20）、9（3～30）、であり術後入院日数は、両側部分切除に比べ部分切除で有意に短かった（ $p<0.05$ ）。また、理学療法実施回数は、両側部分切除に比べ部分切除で少ない傾向が見られた（ $p=0.059$ ）。

【考 察】

開胸術に比べ VATS で術後理学療法実施回数が有意に少なく、入院日数が短い傾向にあった。VATS は術直後の創痛が少なく早期より離床、歩行が可能であったためと考えられる。切除部位の比較では、両側部分切除が部分切除に比べ術後入院日数が有意に短く術後理学療法の回数が少ない傾向にあった。術後両側に胸腔ドレーンが挿入されており、離床や歩行の妨げになったためと考えられる。現在、当院の術後理学療法終了基準は、150m 往復歩行が自立した時点であるが、その後も入院が長期化する患者がいる。今後、理学療法の終了基準や関わり方を再考していく。

表1 開胸法別患者背景

	開胸法 (n=37)	VATS (n=43)
年齢(歳)	66±9	66±9
身長(cm)	163±8	163±8
体重(kg)	63±12	58±11
術前肺活量(L)	3.2±0.6	3.2±0.8
術前1秒量(L)	2.2±0.7	2.3±0.5

平均±標準偏差

表2 皮切部位別患者背景

	側方切開 (n=39)	前側方切開 (n=20)	後側方切開 (n=3)
年齢(歳)	67±10	67±8	66±9
身長(cm)	164±8	162±8	163±8
体重(kg)	62±12	57±9	60±11
術前肺活量(L)	3.2±0.6	3.2±0.8	3.2±0.7
術前1秒量(L)	2.2±0.6	2.1±0.6	2.2±0.6

平均±標準偏差

表3 切除部位別患者背景

	葉切除 (n=49)	部分切除 (n=12)	片肺全摘 (n=5)	両側部分 (n=4)
年齢(歳)	68±9	63±6	58±5	64±10
身長(cm)	162±9	164±7	167±3	167±5
体重(kg)	60±12	64±11	62±10	56±5
術前肺活量(L)	3.2±0.7	3.2±0.6	3.5±0.6	3.9±0.9
術前1秒量(L)	2.1±0.5	2.4±0.5	2.2±0.7	2.6±1.1

平均±標準偏差